

子育て支援による地域づくりの実践と協働



岡本 聡子 Satoko Okamoto
NPO法人ふらっとスペース金剛 代表理事

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事。2003年大阪府富田林市で民家を借りて、親子が気軽に集える場所を仲間と共に開設。2004年より大阪府、2009年より富田林市の子ども施策審議会委員。2013年より奈良市子ども子育て会議委員。2015年3月、大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了。

1. 困りごとが出発点

夫の転勤のため、知り合いのいない土地での子育て、そこに娘のアレルギーも加わり、孤立感としんどさを感じる子育てをしていた。2001年当時、二人の娘は5歳と1歳。

富田林市に戻り、生協や子育てサークル、市の女性問題講座などで出会った10人で、2003年5月、「自分たちの居場所」を立ち上げることになった。ニュータウンの民家を借りて、ふらっと気軽に立ち寄れる場所、FLATな関係でお互い支え合える場所として、「ふらっとスペース金剛」が誕生した。

子育てを一緒にする仲間、手助けを得られる人との出会いは、私にとって心強いものとなり、ここでなら子育てできる、という安心を得ることができた。自らが困った時に助けを得られたこと、自分を認めてくれる仲間がいたことは、誰かの支えになろうとする意欲に繋がった。

I am ok.

You are ok.

We are all ok.

ふらっとスペース金剛のスタッフTシャツにプリントしてある言葉だ。「私があるのままであっていいように、あなたもそのままでいいよ。そして、私たちはそれぞれ

違うけれど、それでいい。違いを尊重して、多様性を受け入れていく地域社会は、子育てしやすい環境だけでなく、どんな人にとってもきっと住みやすい」という信念が私たちの活動の根っこにあった。

機関誌「ふらっとニュース」の1号から、12年経った138号まで、ずっと載せているメッセージがある。「ふらっとスペース金剛は、子育て支援による地域づくりを目指すNPO法人です」。町内会の役員を引き受



けたり、校区福祉委員の子育てサロンにボランティアとして出向いたり、中学校区単位で活動している地域教育協議会のメンバーになって積極的に地域の活動に参加したりすることで、地域とのネットワークを少しずつ広げてきた。現在は、中学校4校から職業体験の生徒を受け入れている。